

1 単元名 「言葉」と「効果」で物語のよさを紹介しよう

2 本単元の目標

(1) 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

(知識及び技能)(1)キ

(2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)C(1)エ(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1)キ	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (C(1)エ)	① 粘り強く言葉とその効果について検討し、今までの学習で学んだことを活用して、物語のよさを紹介しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本教材「雪の夜明け」は、様々な危険と隣り合わせの大自然の中で、野うさぎの子が一生懸命生き抜く姿を、効果的な情景描写とともに、躍動感あふれる書きぶりで書かれた文学的文章である。本教材は一貫して「雪」という言葉が物語の中心にある。また、既習教材「初雪のふる日」は、「雪」という言葉がキーワードとなっていることや、登場人物に「うさぎ」が含まれていることなど、本教材との共通性がある。よって、既習教材「初雪のふる日」を用いて読む活動を行うことで、同じ言葉でも、叙述によって読み手に与える印象や効果が異なることに気付くことができ、より深まりのある読み方ができると考えた。そのため、叙述に着目し、言葉の効果を考えて読む力を活用することに適した教材であると考えた。

(2) 児童観

本学級の児童に対して、叙述に着目して読み、言葉の効果を考えて読む力に関する実態調査(令和3年*月実施、第5学年*組*人)を行った。1学期に実施した文学的文章教材「カレーライス」において、「カレーライス」という言葉が、作品の中でどのような効果をもっているか、叙述を根拠にして書く問題を出題した。記述を分析してみると、叙述を根拠に言葉の効果を考えることができている児童は*人、できていない児童が*人という結果であった。できていない児童の内訳は、叙述を根拠にすることはできているが、効果が書けていない児童*人、叙述を根拠にできず、効果も書けていない児童*人、無答の児童が*人であった。更に、児童の振り返りの記述から、「何に着目して読めばいいのかが分からない」、「効果を考えるのが難しかった」などと感じている児童が、約半数の*人いることも分かった。これらの結果から、本学級の児童は、叙述に着目して読むことや言葉の効果を考えることに課題があることが明らかになった。これらの要因としては、これまでの授業の中で、一つ一つの叙述の文章全体での働き、叙述の中での言葉の効果などについて考えて読むための手立ての不足や、身に付けた力を積み重ね、その力を生かすことができるような学習過程の工夫が不十分だったためだと考える。以上のことから、児童が叙述に着目し、言葉の効果を考えて読む力を活用できる児童を育てる学習指導を行う必要があると考えた。

(3) 指導観

本単元では、初めに既習教材「初雪のふる日」で叙述に着目して言葉の効果を考えて読む活動をし、次に、本教材「雪の夜明け」において、その活動を生かして読み、最終的に自分で選

んだ物語で、自立的に読む活動を位置づける。具体的な流れとして、まず、表現が工夫されている叙述を引用し、根拠を明確にして感想を書く活動を取り入れ、叙述に着目して読むことを意識できるようにする。次に、叙述・効果結び付けシートを用いて、「雪」という言葉が含まれている叙述に着目し、主人公の心情を考えたり、叙述に含まれる言葉の効果を考えたりする活動を行う。そして、叙述の中に含まれる「雪」という言葉を総合して判断し、物語全体における言葉の効果を考える。その際、言葉の効果ガイドを用いて、言葉の効果の考え方を提示し、思考の助けとなるようにする。最後に、自分の好きな物語で言葉を一つ引用し、その言葉がもつ効果とともに作品のよさを紹介するというパフォーマンス課題を設定し、それまでに身に付けた力を活用してパフォーマンス課題を解決できるようにする。そこで、課題解決のための手引きとして、単元全体を通して、課題解決サポートシートを用いて1単位時間ごとのまとめを蓄積していく。更に、ループリックに基づく「読む視点」の指標をもとにすることで、児童各々がループリックの段階ごとに課題解決に向かって自立的に読むことを促す。このように、読む活動で身に付けた力を積み重ね、その力を生かしてパフォーマンス課題を解決するという学習過程の工夫をすれば、叙述に着目し、言葉の効果を考えて読む力を活用できる児童を育てることができるであろうと考える。

5 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	- パフォーマンス課題を知り、本単元での学習の見通しをもつ。 - 既習教材の一場面で、叙述に着目し、主人公の女の子の心情や、言葉の効果を考える。 課題 「初雪のふる日」で、「雪」という言葉はどのような効果をもっているだろうか。 「雪」という言葉が含まれる叙述に線を引き、線を引いた叙述をもとに、「雪」がもつ効果について、根拠を明確にして考える。 まとめ 効果を考える時には、同じ言葉が含まれる叙述を見つけ、その叙述から受ける印象をもとに考えるとよい。				- 物語を読んで身に付けた力を活用して、自分の好きな物語で言葉を一つ引用し、その言葉がもつ効果とともに作品のよさを紹介するというパフォーマンス課題に取り組んでいくことを確認する。 - 効果とはどのようなものか、現段階でもっているイメージを発表するよう促す。 「言葉の効果ガイド」を提示し、効果の考え方の参考にしよう助言する。 「雪」という言葉に着目するためには、どのようなことをすべきか発表するよう促す。 思①：言葉の効果を考えることが難しい児童には、線を引いた叙述それぞれから受ける印象を組み合わせるよう助言する。 【観察、ワークシート】
2	2	「雪の夜明け」を読む。 課題 表現が工夫されていると感じた言葉や叙述を引用し、感想を書こう。 - 言葉か叙述を一つ引用して、なぜ工夫がされていると感じたか根拠を明確にしてワークシートに書く。 - グループで交流する。 まとめ たとえや、くり返しが使われている表現に着目して読むと、表現の工夫を捉えて感想を書くことができる。				- 工夫された表現とは、どのようなものかについて、もっているイメージを発表するよう促す。 知①：表現の工夫が見つけられない児童には、「この表現いいな」という観点で考えるように促し、その根拠を明確にできるように助言する。 【観察、ワークシート】 - 全体に、根拠を明確にして書くことができるように助言する。 3、4人グループで交流することで、自分の考えを広げることができるように助言する。 態①：司会役の児童に話合いが途切れないうように、積極的に自分の考えを述べるような進捗をするよう助言し、友人の意見から、自分の考えを広げたり、深めたりできるよう助言する。
	3	課題 「雪」を含む叙述から考えられる野うさぎの子の心情は、どのような心情だろうか。 「雪」という言葉が含まれる叙述に線を引く。				第1時の「初雪のふる日」での学習を振り返り、どのような手順で活動したか、発表するよう促す。 思①：心情を考えることが難しい児童に対しては、野うさぎの子の行動・言動・様子・態度などが表れている叙述に着目して考えるよう言葉かけを行う。さらに、そこから、「雪」という言葉と

		線を引いた叙述をもとに、場面ごとに野うさぎの子の心情を考える。 まとめ 心情を考える時には、情景を表す言葉に着目するとよい。			関連させて考えていくよう助言する。 【ワークシート】
	4	課題 それぞれの場面ごとに、「雪」という言葉はどのような効果をもっているだろうか。 前時の学習をもとに、「雪」という言葉が含まれる叙述を場面ごとに捉え、効果を考える。 まとめ 言葉の効果を考える時には、場面の全体像をふまえて、この言葉があることで、どんないいことがあるかという視点が大切である。		○	第1時の「初雪のふる日」での学習や前時の学習を振り返り、どのような手順で活動したか、発表するよう促す。 思①：効果を考えることが難しい児童には、第1時の活動と同じように、線を引いた叙述それぞれから受ける印象を組み合わせる考えようを助言する。それでも難しい児童には、置き換えカードを使って、もしこの言葉が違う言葉に置き換えられた場合に、読み手に与える印象はどうなるかという視点から、言葉の効果を考えられるよう支援する。 【観察、ワークシート】
	5 検証授業	目標：「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 1 学習課題を確認する。 課題 この物語全体で、「雪」という言葉は、どのような効果をもっているだろうか。 2 前時の内容をふまえて、個人で言葉の効果を考える。 3 グループで、オンラインホワイトボードを用いて、ワールドカフェ方式で意見交流する。 4 クラスワークで交流内容を共有する。 まとめ 物語全体での言葉の効果を考える時には、場面ごとの言葉の効果を総合して判断する。 5 課題解決サポートシートに、まとめとふり返りを記入し、次時への見通しをもつ。		◎	- 前時の学習内容を振り返り、前時で考えた内容をもとに、本時は活動していくことを伝える。 思①：人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 【観察、ワークシート】 - 個人で検討した内容をオンラインホワイトボードに入力するよう指示し、グループで交流できるようにする。 - ワールドカフェ方式の手順を説明し、円滑に活動できるようにする。 - ワールドカフェは、①元グループ②別グループの2ラウンドで行うことを伝える。 - 一台端末をもって席を移動するよう伝える。
3	6	パフォーマンス課題 【ステップ1】自分が好きな物語から、作品のよさを伝えるための言葉を選び、その効果について考えよう。 - 作品のよさが伝わる言葉を選び、言葉が作品にもたらす効果について、根拠を明確にして考える。 - 読みたいと思ってもらえる一押しワードを考える。 まとめ (例) ○○という言葉は、作品において～効果がある。理由は、～の場面から△△と感じたからである。 作品全体に関わるような言葉選びと、その言葉があることによって作品がどうなっているかという視点が大切である。		○ ◎	- パフォーマンス課題を確認する。 - グッドモデルを提示して、児童が成果物のイメージを具体的にもてるようにし、意欲の喚起を図る。 思①：課題解決サポートシートを手引きとして活用していくよう助言し、本時から、ルーブリックの指標を確認しながら、学習に取り組むよう伝える。 【構想メモ】 - 各自で用意していた物語で、課題解決のために必要な情報を精査しながら、構成メモにまとめていくよう助言する。 知①：比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 【構想メモ】

7 検証授業	目標：「読むこと」において、自分で選んだ物語で、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 1 学習課題を知る。 パフォーマンス課題 【ステップ2】構想メモをもとに、自分の好きな物語のよさを伝える紹介スライドを作成しよう。 2 全体で、前時の学習で、意識したことや難しかったことについて意見を共有する。 3 個人で、前時の構想メモの内容をもとに、情報を取捨選択しながら、スライドを作成する。 まとめ (例) ○○という作品のよさを伝える言葉は△△であり、～の効果をもっていると考え。 選んだ言葉とその効果が、物語のよさにきちんとつながっているかが大切である。 4 課題解決サポートシートに、まとめとふり返りを記入し、次時への見通しをもつ。		◎		・パフォーマンス課題を電子黒板に投影し、全体で確認できるようにする。 ・前時の学習のふり返りを行い、全体で共有することで、構想メモがあまり進んでいない児童の助けとなるようにする。 ・前時の学習をふまえ、構想メモにまとめた情報を精査して、スライドを作るよう助言する。 ・相手や目的を意識して取り組むことで、伝える情報を精選することができるようにする。 思①：自分で選んだ物語で、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 【紹介スライド】 態①：粘り強く言葉とその効果について検討し、今までの学習で学んだことを活用して、物語のよさを紹介しようとしている。 【観察、紹介スライド】
8	パフォーマンス課題 【ステップ3】読書率向上を目指して、「読んでみたい」と思わせる物語の紹介をしよう。 ・グループで自分が作ったスライドをもとに、物語のよさを紹介し合って交流する。 ・クラスで各自が作成したスライドを共有し、感想を発表する。 ・課題解決サポートシートを用いて、単元の振り返りをする。			◎	・各自が作成したスライドをもとに、物語のよさを紹介し合うことを確認し、「読んでみたい」と思わせることができるような紹介ができるよう、助言する。 ・課題解決サポートシートで、単元全体を通してのふり返りができるようにする。 ・スライドはグーグルクラスルームで共有し、児童同士で見られるようにする。 態①：積極的に物語のよさを紹介しようとしている。 【観察、課題解決サポートシート】